

# くりやま 社協だより

2011  
10.1発行



## 被災地へ届け！あたたかい想い

栗山町月見草の会(佐藤俱子会長)が呼びかけて始まった「手づくりの靴下カバー」が、1,300足も集まり、この度、関係機関を通じて、被災地に送られました。

- 「いのちのバトン」配付事業..... 2、3
- 夏休み体験ボランティア..... 4、5
- 栗小・栗高福祉教育..... 6
- 社協事業報告..... 7
- 北海道社会福祉大会表彰・社協のお知らせ... 8

## 北海道社会福祉大会表彰



社会福祉施設役員功勞の表彰者を代表して表彰を受ける橋一也氏

9月8日に稚内市総合文化センターにおきまして、社協創立60周年記念北海道社会福祉大会が開催されました。

以下の功勞者(団体)が表彰されました。

### 北海道社会福祉協議会長表彰

社会福祉施設役員功勞(現職15年以上)

- ・栗山ゆりの会 ハローENJOY
- 理事長 橋一也氏
- 理事 森克己氏
- 理事 酒井利彦氏

民生委員・児童委員功勞(現職15年以上)

- 委員 丸山紘司氏
- 委員 藤澤千恵子氏
- 委員 佐藤恵子氏

社会福祉施設職員功勞(現職20年以上)

- ・栗山ゆりの会 ハローENJOY
- 事務長 磯谷孝氏
- 部長 田中洋氏
- ・水の会 養護老人ホーム泉徳苑
- 主任支援員 高橋美智子氏

### 北海道社会福祉協議会長特別表彰

社会福祉協議会役員功勞(現職25年以上)

- ・栗山町社会福祉協議会
- 会長 吉田輝雄氏

### 北海道社会福祉協議会長特別感謝

- 事業協力(被災地支援活動)
- ・栗山町社会福祉協議会

## 無料法律相談のご案内

社会福祉協議会は、法律でお悩みの方を対象に下記の要領で無料法律相談を開設しています。また、日常の心配ごとや困りごとで相談を希望される方の対応もしておりますので、いつでもご連絡ください。

**開設日時** 10月2日(金)13時~16時  
毎月第3金曜日に開設しております。

11月以降の開設日は、町広報「まちのお知らせ」でお知らせしています。

**申し込み** 事前に電話で予約ください。先着順とさせていただきます。

**開設場所** 栗山町総合福祉センター「しゃるる」

**相談員** 札幌弁護士会所属弁護士

**相談料金** 無料

**お問合わせ** 栗山町社会福祉協議会

## ご厚志ありがとうございます

平成23年6月21日以降 平成23年9月20日までに  
お寄せいただいた方

金一封  
新生くりやまを考える会(塚本 虎男会長)様より  
社会福祉事業へ

松坂 志津枝様(話の聴き方講座講師・  
札幌市)より社会福祉事業へ

木内 勲雄様(継立)より母の逝去に際して  
社協への寄附金は確定申告時の所得控除の対象になります。

平成23年10月1日発行

発行：社会福祉法人  
栗山町社会福祉協議会

〒069-1513 栗山町朝日4丁目9番地36

栗山町総合福祉センター「しゃるる」1階

TEL(0123)72-1322

FAX(0123)72-5121

E-Mail k-shakyo@jeans.ocn.ne.jp

ky\_sya@mskk.gr.jp

印刷：山東印刷株式会社



社協だよりは、赤い羽根共同募金の助成を受け作成しています

先日、稚内市に行く機会がありました。稚内市は、私が大学時代に人と旅行で行った思い出の地。当時、利尻島に向かったフェリーターミナルに行くのと、立派に建て替えられ、だいぶ景観が違って見えました。その風景を携帯電話のカメラで撮影し、画像をメールで友人に送信、当時を懐かしみました。そういえば、その頃は携帯電話でそんなことできなかった。いろいろな意味で時の流れを感じて来た事でした。

編集後記

# 明日にむけて優しい投資を

## 「いのちのバトン」でつなぐ地域の絆



いま、全国的に無縁社会とか買い物難民、老老介護、孤独死などが社会問題になっておりますが、私たちのまちは大丈夫なのでしょうか？

「遠くの家族より近くの他人」といいますが、何かあった時には地域で助け合う仕組みが求められております。

そこで、今回は社協の新しい取り組み「いのちのバトン」・在宅サポーター事業を通じて地域で支え合う大切さを考えてみることにしました。

500世帯を超えた「いのちのバトン」

いま町内にはひとり暮らし約1,100世帯、夫婦のみ約900世帯の高齢者だけの世帯が増えています。

中でも、ひとり暮らしの方々は毎日の生活に多くの不安を抱えております。「お風呂に入る時」「突然具合が悪くなった時」「炊事など火の始末」「買い物など若い世代には考えられない不安と毎日向き合っています。

生活をしています。このひとり暮らしなどの高齢者の皆さんが少しでも安心して生活していただくために、社協が町内・自治会の協力で昨年から無料配布している「いのちのバトン」が500世帯を超え、高齢者の皆さんの心の支えになっております。

特に、いままでと違うのは高齢者の皆さん自身からの設置要望が多いことです。

「いまは大丈夫だけどなにかあったら」とか「何も頼るものがなくて」とか「比較的元気な方から将来への予防を考えて申し込みがされております。

これはまず自分の命は自分で守る、そして次に家族や地域の皆さんの支援を受けると言う考え方が徐々にですが定着してきたのではないのでしょうか。

### 在宅サポーターが元気を届けます！

今年から道内でも珍しい在宅サポーター事業がスタートしました。現在、この在宅サポーターは命のバトンを設置した500世帯を順次訪問し、バトンの保管状況や安心カードの内容確認などのほか生活上の楽しみや苦労話などもお聞きしています。

1日10件程度を目標に訪問していますが、皆さんが喜んで受け入れてくれることから、人によっては話が花が咲き1時間以上もお話が続くこともあります。



高齢者宅を訪問の様子（ときわ町内）

普段何気なく行われているコミュニケーションの中で、相手の気持ちに寄り添って、話に耳を傾け、受けとめる  
- 話の聴き方講座 -



講師の松坂志津枝氏



施設で傾聴を体験 養護老人ホーム泉徳苑



「話の聴き方講座」は、7月14日から8月8日までの6日間、15名の受講者で開催いたしました。

講師は、心理療法カウンセラーの松坂志津枝氏を招き、普段何気なく行われているコミュニケーションの中で、相手の気持ちに寄り添って、話に耳を傾け、受けとめる「話の聴き方」についてご指導をいただきました。

受講者からは、「自分自身を見つめなおす機会となりました」、「普段のおしやりと傾聴の違いがわかりました」、「傾聴ボランティア『虹』のお話を聞き、私も仲間になりたいと思いました」などの感想がありました。



栗山町で今年設立した傾聴ボランティア「虹」会長日原富士子氏より講座の中で、現在の活動をお話いただきました。



## 「いのちのバトン」を支える地域の皆さん



南角田地区担当民生委員  
大坪 昇 氏

各地域で民生委員さんに積極的な協力をいただいています。中でも、南角田・円山・東山・滝下地区を担当されている大坪民生委員はいち早く対象となる世帯を廻りバトンの利用を進められ、現在は配布した世帯の巡回訪問を行っております。

### —大坪氏—

「農村地域でもひとり暮らしや夫婦のみの高齢者世帯が多くなっており、地域が広いこともあって自治会や私どもでも日常にお世話できないのが悩みでしたが、この命のバトンは何かの時に高齢者が助けを求めるなどの情報発信をしてくれることになればと期待しています」



朝日町内会長  
椋澤 忠彦 氏

朝日町内では、担当の役員がバトンに入れる安心カードの点検はもとより、健康保険証や薬の処方箋などを町内会でコピーしてバトンに入れるなど高齢会員の気持ちになって日々の安心につなげております。

### —椋澤氏—

「私ども町内でも高齢化が進んでいて、防災を含め何か日常的なサポートを考えていましたが、命のバトンの話をいただき「待ってました」とすぐに取り組みました。調査や配布に際しては地域担当の島武美、平畑道子両民生委員が熱心に取り組んでくれ1軒1軒を廻ってバトンに入れる内容を工夫してくれました。」

### 買い物や除雪などが大変

在宅サポーター訪問の際に皆さんから多く聞かれるのは「買物」とか「冬の除雪」「家の片づけ」などが大変という声が多く聞かれました。

みなさんが自分の家で頑張りたいと考えており、このことは介護保険サービスや町の福祉サービスの充実の他に今後は買物や調理、掃除などの生活支援サービスを地域の皆さんと考えていくことが必要と思っています。

<社協として今後検討していきます>

### 高齢化にマニュアル（見本）はない

未曾有とも言うべき我が国における高齢化社会の急速な進行は、世界のどの国も経験しことがなくどこにも見本がないのです。

それはいまの高齢者の皆さんの生き方がこれから続く世代の見本になるということなのです。

そのためには、「老いること」を受け入れ心やからだの衰えを認め、その足りないところは家族や地域そして公的サービスにゆだねて自立した生活をしていくことが新しい高齢者像になるのではないのでしょうか。

### 声かけが一番！

反面では、ひとりでの生活にさみしさを感じている方が大半で、体調が悪いなどで一日の大半を家で過ごす方も多く何日も人と話すことがない方もいました。

こんな時に地域の方が声をかけてくれると大変うれしいとも話されていました。

このような、地域の無縁化を防ぐためには、私ども社協の活動も町内・自治会や老人クラブ、ボランティアなどと連携を図り活動内容の見直しが必要に感じました。

また、そのためには高齢者自身も心を開き、自分のために地域の方を受け入れる気持ちを持つことが大切のように思います。



栗山小学校の4年生87名が、福祉学習の一環で「特別養護老人ホームくりのさと」、「養護老人ホーム泉徳苑」、「老人保健施設方デンハウスくりやま」を訪ねました。それぞれ、施設見学後に練習した合唱等を披露しました。



特別養護老人ホームくりのさと



養護老人ホーム泉徳苑



福祉施設訪問と視覚障がいについて  
栗小4年生 87名



サウンドテーブルテニス

永杉さんのお話

講師に視覚障がい者の永杉忠彦さんを招き、日常生活のお話や点字を学びました。永杉さんは、普段使用している音声ガイド付きの携帯電話・パソコン・目覚まし時計を使う実演や児童とサウンドテーブルテニスを楽しんだりしました。

## 視覚障がい者の生活を支える盲導犬！

～栗小4年生・栗高2年生福祉学習～

栗山小学校（4年生87名）と栗山高等学校（2年生ヒューマンコース17名）では、視覚障がい者と盲導犬について学ぶ福祉学習が行われました。

講師に北海道盲導犬協会の北島航一さんとPR用の盲導犬アトムを招き、視覚障がい者の生活を支える盲導犬についての講話を聞き、歩行体験などを行いました。

事前に目かくしをして、視覚障がい者の疑似体験をしていた栗小の生徒は、「疑似体験の時は、恐る恐る歩いてたけど、盲導犬との歩行体験では、安心感があって早く歩くことができた」と感想を話していた。



疑似体験



PR用盲導犬アトムとの歩行体験



図書室で、歩行体験（栗高）



歩行体験後のふれあい

# 体験から新しい発見！

## —夏休み体験ボランティア—

社協は、学校の夏休み期間に福祉活動の体験を通して、福祉への理解を深めることを目的に体験ボランティアを開催しました。北翔大学、岩見沢農業・栗山高校の学生18名（延べ59名）が特別養護老人ホームくりのさと・ガーデンハウスくりやま・ハローENJOY・栗山いちい保育園・継立、角田保育所・児童センター・配食、電話サービスの体験をいたしました。



角田保育所



継立保育所



配食サービス



ハローENJOY

特別養護老人ホームくりのさと



栗山いちい保育園



児童センター



### 参加者の感想抜粋

**角田保育所**  
北海道介護福祉学校1年 内藤 杜朗さん  
子どもたちの元気な顔を見ることができて、私自身がリフレッシュし、たくさんのパワーをもらいました。今回の体験で、子どもを対象とする仕事も楽しそうだなと感じました。また、参加したいと思いました。

**電話サービス**  
北海道介護福祉学校2年 児玉 恵里さん  
実際にお話させていただき、悩みを話されたり、家族が遠くにいたので、電話は楽しみの一つとお聞きしました。在宅生活する高齢者を支えるサービスはたくさんあるが、電話サービスはそのサービスの一つだと思った。

**継立保育所**  
栗山高校3年 佐藤 弓子さん  
子どもと遊ぶことをイメージしていたので、意外とすぐに仲良く遊ぶことができました。先生が子どもを寝かしつける時に、とんとんする手の強弱や子守唄などですぐに子どもを寝かしつけるのはすごいと思いました。

**配食サービス**  
北海道介護福祉学校2年 日野 綾子さん  
配食サービスの利用者は、一つのサービスだけでなく、他にも様々なサービスを受けながら生活されている方が多いことがわかりました。また、在宅で暮らす高齢者の方とお会いできたので、勉強になりました。

**ハローENJOY**  
北翔大学1年 石掛 理子さん  
活動では、作業が多いので、1人でもくもくと仕事をする事が多々ありました。なので、お昼休みに利用者の方とお話したり、一緒に食事をして、とても楽しかったです。この体験は自分が働く時に役立つと思います。

**栗山いちい保育園**  
栗山高校3年 早川 絵梨花さん  
子どもたちは、みんな明るく元気でした。中にはケンカをして、泣いている子もいましたが、先生がきちんとまとめていて、すごいなと思いました。私は、将来保育士になりたいので、今回の体験を活かしたいと思います。

**特別養護老人ホームくりのさと**  
栗山高校3年 松崎 亜耶さん  
活動では、利用者とエプロンをたたんだり、おしゃべりをしたりしました。老人施設での活動は初めてだったので、すごく緊張したけど、職員の方も利用者さんもみんな優しくだったので、すぐに慣れることができました。

**児童センター**  
岩見沢農業高校3年 長尾 美里さん  
私は、子どもたちにたくさん話しかけるようにしました。するとその子どもどうやって接すればいいかわかってきて、とても楽しく活動することができました。また、先生方を見て、いろいろなことを学ばせていただきました。